

自己評価報告書

令和5年度 豊海幼稚園 自己評価報告書

学校（園）名：中央区立豊海幼稚園

所在地：中央区豊海町 3-1

校（園）長名：山口 晃司

園児数 119名

学級数 6学級

教職員数 17名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

1 重点目標の達成状況及び取組状況

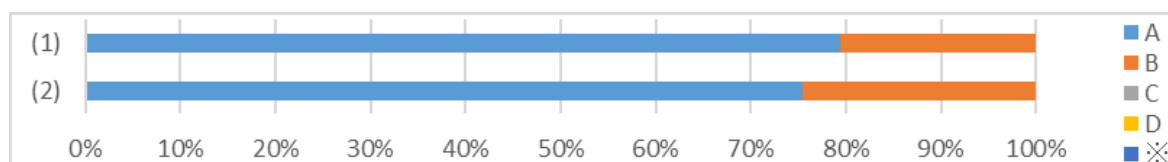
- | | | | |
|---|-------------|----------|----------|
| { | A：十分達成している | B：達成している | C：改善を要する |
| | D 早急に改善を要する | E：わからない | |

重点目標 1 ○身近な自然との関わりを通して、幼児の知的好奇心を育む

- 評価項目 ①幼児が園内外の身近な自然環境に主体的に関わって遊ぶ機会を充実させる。
②自然観察や栽培活動等の直接体験を通して、幼児の興味や関心を高める。

評価指標 (1)園内外の身近な自然に触れ、自然への気付きや事象について関心をもち、遊びや生活を楽しんでいる。

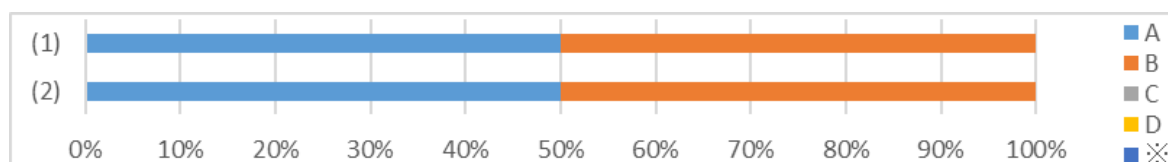
評価結果（保護者）



(1) A：79.4% B：20.6% C：0% D：0% ※：0%

(2) A：75.5% B：24.5% C：0% D：0% ※：0%

評価結果（教員）



(1) A：50.0% B：50.0% C：0% D：0% ※：0%

(2) A：50.0% B：50.0% C：0% D：0% ※：0%

「十分達成している」「達成している」を合わせると、100%の評価であった。

重点目標1に関しては、十分達成できたと捉える。

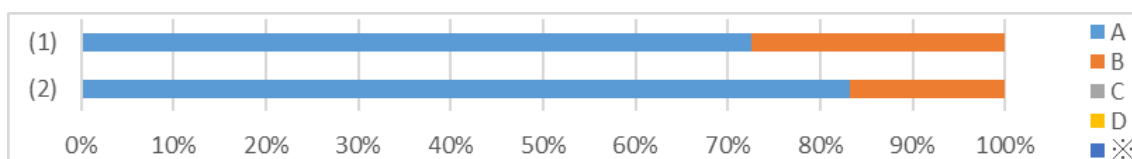
園内研究の取組を保護者に実践事例を「自然ニュース」として発信したり、「とよみはっけんマップ」を張り出し、幼児の発見が伝わる環境を作ったりしたことが、保護者理解につながったと考える。

重点目標 2 ○心身共に健やかな幼児を育む

- 評価項目 ①園生活に安定感をもち、幼児自ら体を動かして遊ぶことに楽しさを感じられるような運動的な遊びの環境を充実させる。
②食育活動を通して、食に関心をもち、幼児なりに健康な体づくりに関心がもてるようにする。

評価指標 (1)様々な運動遊びに関わり、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。

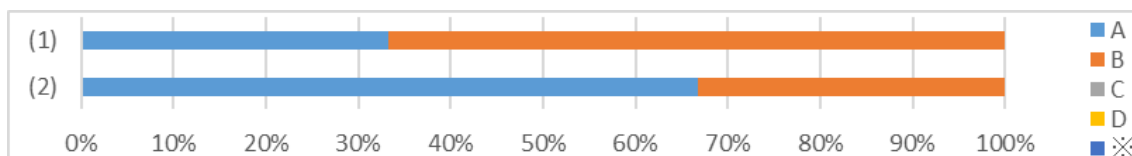
評価結果 (保護者)



(1) A : 72.5% B : 27.5% C : 0% D : 0% ※ : 0%

(2) A : 82.4% B : 16.7% C : 0% D : 0% ※ : 0%

評価結果 (教員)



(1) A : 33.3% B : 66.7% C : 0% D : 0% ※ : 0%

(2) A : 66.7% B : 33.3% C : 0% D : 0% ※ : 0%

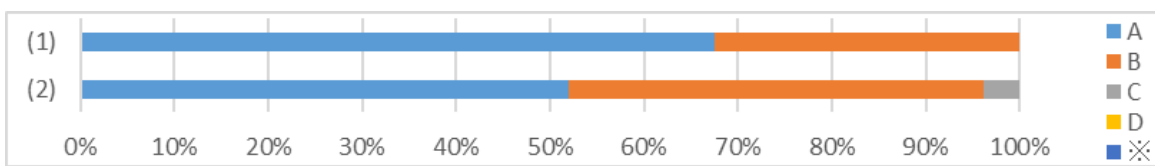
「十分達成している」「達成している」を合わせると100%の評価であった。様々な野菜等の栽培や、「とよみワールド」の果実の収穫、会食活動を通して、親子で楽しむ経験ができたことや、PTAを中心としての保護者ボランティアの積極的な協力があり食育が充実したことも、要因として挙げられる。幼児の偏食傾向が、園生活を通して減少してきたことが、評価につながっている。また、体を動かして遊ぶ機会を、一日に1時間は確保できるよう、様々な運動遊びの提示や、環境作りをしていったことで、評価が高かったと考える。

重点目標 3 ○園生活に主体的に関わり、夢中になって遊ぶ幼児を育む

- 評価項目 ①幼児が夢中になって遊ぶ姿を引き出すような環境構成や指導の工夫を図る。
②相手の思いに気付いたり、自分の思いを伝えたりしながら、遊びを楽しみ、自分の力を発揮する楽しさを感じられるようにする。

評価指標 (1)自分から環境に関わり、やりたい遊びを見付け夢中になって遊んでいる。

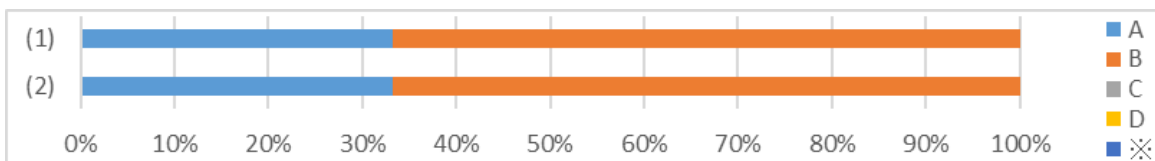
評価結果（保護者）



(1) A : 67.6% B : 32.4% C : 0% D : 0% ※ : 0%

(2) A : 52.0% B : 44.1% C : 3.9% D : 0% ※ : 0%

評価結果（教員）



(1) A : 33.3% B : 66.7% C : 0% D : 0% ※ : 0%

(2) A : 33.3% B : 66.7% C : 0% D : 0% ※ : 0%

重点目標3についても、「十分達成している」「達成している」を合わせるとはほぼ100%の評価であった。

子どもたちが様々な経験を経て成長している姿を通して、保護者の評価が高かったと考える。

教員からは、さらに幼稚園の環境を十分に生かしていきたいとの意見があった。これからも、子供たちのために、保育環境の充実と指導の工夫を図っていく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価は、全体的に（よくあてはまる・あてはまる）96%以上であった。

設問の8：幼稚園が幼児の身近な人とのかかわりを大切する保育をしている

9：幼稚園は年齢に応じて心や命を大切にすることを身に付けさせている

12：幼稚園は家庭への連絡や情報提供に努め、進んで子育て支援を行い家庭とともに育てる体制づくりをしている

14：我が子の食材の好き嫌いについて

15：我が子の遊びを通したバランス感覚の身に付き方

については、全体的に（よくあてはまる・あてはまる）の評価が93%前後であった。

設問9の「思いやりの心や命を大切にすることの教育」は、毎年他の項目と比較してあてはまらないとの回答の7%が（あてはまらないとわからない）であるため、引き続き指導上の配慮が必要である。

設問14の「食材の好き嫌いについて」は、31.4%が（あまりあてはまらない・あてはまらない）と評価が低い。しかし、昨年の40.2%（あまりあてはまらない・あてはまらない）と比較すると、保護者は異なるものの10%の幼児の好き嫌いを減少

したことが明らかになった。

今後も全体的な評価だけではなく（あてはまらない・わからない）の少数の意見に注目し、工夫、改善を図る。

教員の振り返りとしては、今年度小学生との交流を通して互恵性のある経験をする事ができたので、来年度の研究発表会の機会を生かし、幼稚園からも小学校や近隣の幼児施設に働き掛け発信していく必要性が出された。また、豊かな園や地域環境、人材を生かした教育活動をしていくことが挙げられた。

3 課題と方策

- ・今年度も保護者の PTA の積極的な協力を得て、飼育栽培、食育の充実をすることができた。また、保護者や外部の地域力を生かした「放課後わくわくタイム」を数回開催することができ、保護者、地域の保育への参画ができた。来年度は、この協力体制を生かし、さらに充実した幼稚園教育を図る。
- ・ルクミーを利用したの発信も 2 年目となり、保育で幼児が経験したことを、タイムリーに保護者へ発信することができた。一方、ホームページに、ルクミーでの発信が生かされると、他の学年の活動を全体に周知することができるので、こうした内容を反映していくことが、これからの課題である。
- ・昨年度の振り返りで挙げられていた（異年齢児間の関わりの必要性、本園の自然環境を生かした保育の充実）については、評価が上がった。コロナ禍での経験を生かした行事の精選工夫は引き続き行う。